



联合国  
粮食及  
农业组织

FOOD AND  
AGRICULTURE  
ORGANIZATION  
OF THE  
UNITED NATIONS

ORGANISATION  
DES NATIONS  
UNIES POUR  
L'ALIMENTATION  
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION  
DE LAS NACIONES  
UNIDAS PARA  
LA AGRICULTURA  
Y LA ALIMENTACION

منظمة  
الغذية  
والزراعة  
للأمم  
المتحدة

### Liaison Office in Japan

6F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,  
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101  
Facsimile: (045) 222-1103  
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

LOJAPR06/11- No.90

**FAO プレスリリース**

**FAO 国際連合食糧農業機関 日本事務所  
2006年10月30日**

## 2006年世界の食料不安の現状

**2006年10月30日ローマ発**

空約束だけでは食物の代わりにはならない、として FAO 国連食糧農業機関事務局長ジャック・ディウフは、2015年までに全世界の飢餓人口の半減を目指す10年越しの公約を守るよう、改めて全世界の指導者たちに呼びかけた。

2015年までに世界の飢餓人口を半減させるとした1996年ローマ世界食料サミットから10年が経過した。しかし今日では1996年よりも多くの人々 約8億2千万人 が開発途上国で飢えに苦しんでいる、とディウフ事務局長は述べた。

「飢餓人口は減っているどころか、年に400万人のペースで増加している。」と事務局長はFAOの年次報告「世界の食料不安の現状(通称SOFI)」の発表に際して続けた。

1996年当時、サミットに参加した185カ国の指導者たちにとって世界の飢餓は「受け入れ難く容認しえない」ことであった、とディウフ事務局長は思い起こす。「それなのに、いまだ世界の飢餓は『受け入れがたく容認し得ない』状況のまま、10年を経過してより悪化している。」

「いままでのやり方を続けるだけでは、飢餓撲滅は達成しえない。」とディウフは断言する。そして世界食料サミットの目標を達成できないということは「恥ずべきこと」と言い添えた。

### **微々たる減少**

今回のFAOの推計によると、今日開発途上国で飢えに苦しんでいる人々は8億2千万人にのぼり、1990-1992年に8億2300万人であったという世界食料サミットで参照された数字と比べて、わずか300万人減少したにすぎない、としている。

その上、1996年の飢餓人口が8億人であったとする指標と比べると、今日では逆に2300万人の飢餓人口の増加ということになる。サミットの公約を守るためには2015年までに毎年3100万人の飢餓人口を減らしていかなければならない計算になるが、毎年飢餓人口は約400万人のペースで増加している、というのが現実である。

とはいえ、過去10年間のあいだ開発途上国における飢餓人口の割合は、総人口が増加しているため減少している、とSOFIは報告している。

1990-1992年では、開発途上国の5人に1人が栄養不良であった。今日ではその割合は17%に下がっているのである。

## ミレニアム開発目標

加えて FAO は今後 9 年間で、この割合が 17% から 10% に減少すると予測している。「これは、世界が飢餓半減のミレニアム開発目標達成に向かって進んでいることを示唆している。」と報告書は述べている。

にもかかわらず、2015 年の総飢餓人口は依然として 5 億 8 200 万人と推定されている。この数字は世界食料サミットの目標とした 4 億 1 200 万人と比べて 1 億 7000 万人多いのである。

この予測では、飢餓人口の半分以上は南アジア(2 億 3 000 万人)・東アジア(1 億 2 300 万人)に集中すると推測している。サブ・サハラアフリカ地域では、1 億 7900 万人が飢えで苦しむと予測されているが、これは世界食料サミットの同地域の目標の約 2 倍にものぼる。

## 深刻な不均衡

全体としての飢餓人口の減少は実は地域ごとの深刻な不均衡の事実を隠してしまう、と報告書は指摘する。例えば、アジア・太平洋地域とラテン・アメリカ・カリブ海地域では、飢餓人口の総数も割合も減少している。

一方、サブ・サハラアフリカ地域にとっては、「気が遠くなるような難題」として飢餓人口削減問題が差し迫っているのである。現在、2 億 600 万人の飢餓人口が同地域にいとされているが、それは、1990 - 1992 年よりも約 4000 万人多いのである。

世界食料サミットの目標は、もしも明確で具体的な方策が執行されれば、まだ達成可能である、と SOFI は指摘する。ただし、そのためには二方面作戦 直接に飢餓をなくす施策のみでなく、農業・農村開発への支援 が必須である、としている。

報告書は、その他にも今後飢餓をなくすための数多くの段階的措置を推挙している。例えば 貧困や飢餓の「ホットスポット」への投資・プログラムの集中的実施、 小規模農家の生産性の向上、民間投資推進のための透明性や良い統治を含めた投資環境整備、 貧しい人々にも利益を得られるような脆弱者へのセーフティーネットを持った世界の貿易制度、 政府開発援助の対 GDP 比率の公約達成(0.7%)に向けての援助の迅速な増加等が挙げられている。

「世界食料サミットの飢餓削減目標を達成するためには、今までと比べて飛躍的な取り組みが不可欠である。そのような政治的意思さえあれば我々は目標を達成 **できる**。」と報告書は結論づけている。

### プレスリリースへのお問い合わせ、ご意見等はFAO日本事務所 国安・宮道まで

国際連合食糧農業機関(FAO)日本事務所  
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1  
パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5階  
TEL: 045-222-1101, FAX: 045-222-1103  
FAO 日本事務所のホームページは <http://www.fao.or.jp>  
FAO 本部(ローマ)のホームページは <http://www.fao.org>

<本プレスリリースは、FAO日本事務所ホームページに掲載される予定です。>